



対談 第二弾



防災について

雨宮 千葉県の年間予算は大体2兆2000億円ですが、今年度予算編成において思い入れの強い施策について教えてください。

熊谷 特筆するのであれば防災です。千葉県政に何を望むか県民アンケートを毎年実施しているのですが、1位は常に「災害から県民を守ってほしい」です。県民の思いはここに尽きるわけで、災害があった時に県民を守るのが、県政の一番大事なポイントだと思っています。そのため、なかなか成果としては見えにくいかもしれませんが河川整備など防災インフラを着実に推進しています。

また、災害をすべて防ぐことは不可能なので、たとえば河川が氾濫しそうになった時すぐにアラートが出せるよう、危機管理型の水位計をあらゆる河川に配備し避難勧告や指示を適切・スピーディーに行えるようにするなど、こうした備えを進めています。

また、発災時、県と市の連携が重要なのは市長経験からも実感としてありますが、この時大切なのは、どちらが歩み寄るべきかという点です。これは県であるべきです。災害で壊滅的なダメージを受けると、市は県に、どういう状態でどういう支援が必要かを伝えることすら困難な状態になります。そうした時、市町村が要請する前に県が自ら現地に赴き、どういう状況かを確認してプッシュ型で支援をしていかなければならない。そう考えています。

5年前、令和元年房総半島台風の際は、県の対応が十分ではありませんでした。その総括をふまえ、私は災害が起きたら、必ずその市長に電話を入れ、何に困っているのか、こちらからニーズを把握して支援をしていきます。

雨宮 市町村へのプッシュ型の支援、県のあるべき姿だと思います。そういえば能登半島地震の時も、知事はタイミングを見計らい、すぐ現地に赴かれていましたが、そこで得られた教訓などがあれば教えてください。

熊谷 わたしは、大規模災害発生時は必ず現地に行くか、もしくは現地で指揮した首長などから教訓を直接受け止めるようにしています。

今回能登半島の地震で実感したのは、孤立した集落への対策をどうするかという点です。大規模災害発生時、避難所各所に行政職員を配置していくと全体の災害対応まで手が回らなくなります。そうならないよう、大規模災害時は、地域コミュニティなり他県から応援に来てくれた職員に避難所を管理運営してもらい、その市の職員でしかできないことをしっかりと市役所内でやってもらえるような体制にしなければなりません。そのためには平時から、避難所をどういった災害の時にどう管理するのかといったルールを決めておく必要があります。



千葉県知事 熊谷 俊人
千葉県議会議員 雨宮 しんじ

千葉県から拓く成田新時代！
県政で一年。
雨宮しんじ県政報告会を開催しました！
同年同期の盟友である熊谷俊人千葉県知事に
スペシャルゲストとしてお越しいただき
トークセッションを行いました。
第一弾に引き続き第二弾です。

雨宮 まさに「備えあれば憂いなし」ですが、何に備えるべきかの判断をするためにも、現場に行かれるのですね。特に今回については、千葉県も同じ半島といった意味では、能登半島と同じような問題が起こりうるのではないのでしょうか。

熊谷 その通りです。ですので、私たちはいま市町村に対して、平時から避難所の運営体制について今一度考えていただきたいということをお願いしています。それから、私たちは避難所や地域の集会所の備蓄の物資に対しての支援も考えています。仮に孤立化しても一定期間耐えられるような備蓄や備えをする場合に、県市共同で補助・支援をするようなプログラムの制度設計を、今急いでつくっているところです。(その後、6月補正予算を編成)

雨宮 災害はいつ起こるかかわからないからこそ、あらゆる想定をしながら検討し備えていくことが大切ですね。ありがとうございます。

成田空港機能強化について

雨宮 それでは私の地元成田のことについても意見を交わさせていただきたいと思います。まず千葉県における「成田」の位置付けを、知事どのようにお考えでしょうか。

熊谷 千葉県にとって成田地域は、生命線であり宝だと思っています。成田と成田空港が、いかに周辺地域も支えられる充実した政策を打てるか、これは県の責任だと考えています。

雨宮 大変心強いです。成田空港は今、3本目滑走路の新設などさらなる機能強化が進んでいますが、県としてどのようにコミットしていこうとお考えでしょうか。

熊谷 成田空港は2029年を目指して、新しい滑走路や第二滑走路の延伸も含めた機能強化が予定されています。空港の面積が2倍になる。まさに成田空港第二の開港と

言えるくらいの出来事です。年間発着数が30万回から50万回になったり、雇用も1.5倍になるなど、本当に大きなタイミングが来ます。

その時に、空港だけ充実して、地域に実感がなければ意味がありません。重要なのは、これだけの重要なアジアを代表する空港の周辺に、もっと働く場所を作っていくことだと思います。

いま、日本の国際貨物の6割以上が成田空港に集積され、アジアを代表する国際物流拠点になっています。世界につながる国際物流拠点と、その物流拠点の存在ゆえに可能となる様々な産業団地を作り、この成田で働くことができる。そして働く方々が、地域の活性化をまた支えていく。こうした好循環を生み出していくのが我々の戦略です。

雨宮 知事、ぜひ実現しましょう！まさに今千葉県は、地域未来投資促進法を活用して、多古町に大きな国際航空物流施設、そして成田でもヒューリックが大型物流拠点を計画するなど、様々な取り組みがなされています。今後の展開はどのようにお考えですか。

熊谷 成田空港周辺の限定されたエリアにおいて、たとえ農地であっても、国際物流拠点を作る際には比較的土地の転用をしやすくするといった弾力的運用を国から認めていただき、先ほど雨宮さんがおっしゃった2つの大きなプロジェクトが動き出しています。

また、国際物流拠点だけではなく、たとえば半導体製造装置や医薬品といった、世界的に求められる産業・業種においても規制緩和の適用をしてもらいたいという要望をもって、国との交渉に臨んでいきます。

雨宮 そうなると、今後、通関規制や関税に対する優遇措置を受けられる自由貿易地域(フリートレードゾーン)が不可欠だと思いますが、どうでしょうか。

熊谷 それも一案だと思います。アジアの空港を見ただけで分かると思いますが、仁川国際空港、シンガポールのチャンギ国際空港、台湾の桃園国際空港など、今や各国の第一空港・国際空港周辺は、国家が意識的に産業拠点を形成しています。

例えばオランダであれば空港周辺に農業、千葉県と同じような花を育てて、空港から新鮮な状態で輸出するといったこともしています。

成田空港周辺には、こうした可能性がまだまだあります。成田空港開港の経緯上、どうしてもこのような取り組みができなかった時代もありましたが、地域の方々のご理解の元でここまで来ました。成田空港を受け入れてよかったと地域の皆さまに思ってもらえるような政策を、国と県、市町が連携して実施するタイミングに、いよいよ入ってきていると思っています。

雨宮 「成田空港の周辺って空いている土地がたくさんあるんだからどんどん開発を進めればいいじゃないか」と思われる方も多いと思います。ですが、今知事がおっしゃったように、農地の開発には乗り越えるべき法規制が多く容易ではありません。

ただ、成田には荒廃農地が県内ワーストの約800ヘクタールあります。このような土地をうまく活用しながら空港周辺の開発を進めていくことが今後求められることから、知事とタッグを組んで空港周辺の活性化に向けて取り組んでいきたいと思っています。

農業について

雨宮 知事から先ほど少し農作物についてのお話がありましたので、農業についても触れさせてください。千葉県は有数の農業県ですから、国内市場だけではなく成田新市場を活用して農作物を速やかに海外に輸出していく体制がこれからの課題になってくると思います。その取り組みについて伺えればと思います。

熊谷 成田空港があるというのは本当に恵まれています。そして、近くには新市場があり、輸出の際は、様々な手続きをある程度ワンストップでできる。こうした恵まれた環境にありますので、これから空港周辺で新鮮なものをすぐに輸出できるようにしていかなければならないと思っています。

そのためには、それぞれの国ごとにどのようなニーズがあるのか、空輸に適した果物や野菜は何か、また輸出先の農業基準はどうか、こうした事柄をしっかりと分析する必要があります。最初から輸出を前提にした農作物を作っていたら、新鮮な状態で輸出する、こうした戦略が必要になってきます。

成田空港周辺で高度な農業を作っておけば、仮に世界で食糧危機や紛争等で我が国に食糧が必要となった時、輸出していたものを切り替えることが可能になります。

日本の人口減少にともない農業の需要も減っていくため、食糧危機の際には食料安全保障の問題が出てきます。輸出をすることでニーズを作り出し、いざという時にそれらを国民、県民のために使えるような体制を整えておく、といったことを我々は意識していかなければならないと思っています。

雨宮 これからの農業は、まさに攻めの農業。千葉県も「稼げる農業づくり」を掲げて取り組まれています。ぜひ成田を拠点として海外にもどんどん輸出を強化していければと考えます。

昨年には知事自らが台湾桃園にトップセールスに行かれました。いかがでしたか。

熊谷 台湾は日本の農作物、日本ブランドが強いです。親日国ということもあり、果物ひとつとっても、日本産のものが非常に高い値段で取引されています。

今まで原発事故の影響で台湾に輸出できなかったのですが、現在の台湾の政権のもと、それが緩和され、ようやく輸出ができるようになりました。千葉の梨やさつまいも等、評価していただいたので、これから着実に輸出できると考えていますし、アジアは非常に重要な成長マーケットだと思います。

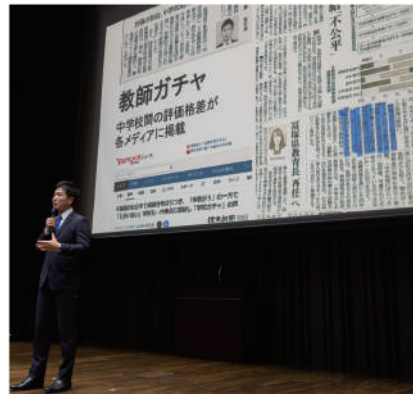
雨宮 成田新市場を活用した千葉県産農水産物の輸出拡大に向けて、知事には引き続き取り組みをお願い致します。

た意見というのが、まさにこの水際対策についてです。水際対策について、国の責任でしっかりと強化してほしいと伝えました。水際対策を強くすればするほど、当然検疫で発見される感染者数は増えます。そうなった場合、成田や千葉県の医師、そして医療資源が取られますので、当然ながら県民を診るリソースが減ってしまいます。ですから、水際対策をする際には、空港周辺に過重な負担がかからないよう、国の責任においてしっかりとプラスαの体制を築いておいてほしいということを我々は申し上げてきました。これからは成田空港を通ってお越しになる外国人の方はま

すます増えるわけですから、検疫等の対策は引き続き求め続けていきたいと思っています。

雨宮 ぜひお願いします。残念ながら今の国の検疫はイミグレーション(出入国管理)までです。

また、体温計も通過する人を測定するだけで、ほぼ実効性はありません。そして一歩空港から外に出てくると、そこからはもう千葉県の役割になってしまいます。千葉県の具体的な一手、対策が不可欠だと思います。ここは今後も県議会において議員として知事と議論を深めていきたいと考えていますので宜しくお願い致します。



対談第三弾は次号へ!



プロフィール

46歳・2児の父・犬2匹
2023年千葉県議会議員
成田市議選4期連続トップ当選
第41代成田市議会議長
明治大学公共政策大学院修了(修士)
日本サーフィン連盟公認インストラクター
商工労働常任委員会 委員
印旛沼水質保全協議会 顧問
千葉県資源エネルギー問題懇話会
千葉県議会観光立県推進議員連盟
千葉県議会動物愛護議員連盟
千葉県議会首都圏中央連絡自動車道推進議員連盟

感染症対策について

雨宮 昨年のコロナ5類移行からちょうど1年が経過し、インバウンドも旺盛になってきています。国際空港を抱え、空の玄関口として世界に開かれている一方、新興の感染症等に脅かされやすいのが成田の特性と考えています。先の一般質問においても、成田に環境衛生がしっかり整い、感染症対策ができるような衛生施設を作るべきではないかといったお話もさせていただきました。その辺りについての課題はどのようにお考えですか。

熊谷 コロナを経て、国でも感染症関連では様々な計画の見直しがされました。その際、我々千葉県から出し

アクアラインマラソン2024に初挑戦&完走!

AQUA LINE MARATHON 2024

県政報告会でお伝えしていた「ハーフマラソンへの挑戦宣言!」を実行し、アクアラインマラソン2024に初挑戦してきました。人生初めてのマラソンだったので不安もありましたが、無事に完走できました。

18km過ぎから膝に痛みが出る場面もありましたが、沿道の皆さんの温かい応援や、スタッフの方々の支えのおかげで、最後まで走り切ることができました。心より感謝します。この経験を通じて、努力を積み重ね、挑戦し続けることの大切さを改めて実感しました。これからも市民の皆さまのご期待に応えられるよう、政治活動においても新たな挑戦を続けてまいります。

